NHK取材（インタビュー応答メモ）

*◇南三陸町のボランティアが増えた理由*

①東日本大震災の時、町民である生活支援員が先頭に立って頑張った姿を見ている。

･身近な存在（生活支援員）に支えられた→「私に出来ることがあったら話して！」

・人様の役に立つ存在であることを知った

・特別な能力・技術を持たなくてもお手伝いは出来ることを知った

②結の里の各種事業を通して、支え合う具体的な姿を見た。

・みんな一緒に集うことが楽しい（顔見知りが出来た・笑顔が増えた）

・特別なことではなく、これまでやって来たことでも役に立つ（料理・裁縫）

・自分が参加したことに反応がある（人から喜ばれた）

③ボランティアイメージを変えた。

・活動：使命感を持って頑張る→楽しい

・担い手：若い・特別な技術を持っている人→私にも出来ることがある

・対象者：困っている特別な人→隣近所の方と一緒に暮らす

*◇南三陸町の被災者支援・町民ボランティアの増加からみえる地域への影響*

・特別なこと→「あたり前の近所付き合い」という感覚が広がってきた

・身近に参加出来ることがあることを知った

・地域づくり（自分の住む町・地域を元気にしよう！）意識が芽生えた

*◇ボランティアの増加が意味すること*

・「お互い様」感覚の一般化が浸透しつつある

・住民自治の必要性と難しさを学んでいる

・震災の苦しい経験を、新たなまちづくりに生かそうとしている人が増えている

*◇これからの地域共生社会に向けて*

・震災の経験（支え合った）を平時の近所付き合いに生かす

・障害・年齢を超えた「支え合い」を日常生活の中で展開する

・「お互い様」を南三陸町の生活文化・生活習慣に育てていく